



宮司つしよ ハナタカ

彦島八幡宮 宮司 ニュース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 平成二十五年七月三十一日

◇宮司の柴田です。 過日の十四日より、まとまった雨が降らず、暑さ一入（ひとしお）厳しき昨今です。 蝉の大合唱に混じって、

「季節はずれ」の「ウグイス」の鳴き声も境内に響き渡っていました。 「ウグイス」の産卵が遅れると、八月上旬まで鳴くのだそうで、特別変異（とくべつへんい）ではないのですけれども、これも、ついつい、異常気象と思ってしまうような、うだるような暑さの日々です。 一日で一月分の降雨を観測するという、記録的な豪雨に見舞われた山口市や萩市では、ライフライン、交通網も寸断されるという甚大な被害もたらされました。被災されました方々に、お見舞いを申し上げます。ますと共に一日も早い復興を願うものです。

◇この「ゲリラ豪雨」ともいふべき原因は、都市部のヒートアイランド現象など諸説あるようですが、根っこにあるのは、地球温暖化という声が多いようです。 温暖化ガスが増えて、地球全体が暖められるなかで、極端な暑さ、寒さや大雨などに見舞われやすくなっている」と科学者たちは、異口同音（いくく

が続いてきたのではないのでしょうか。 お米一升で、「六四、八九七粒」あるそうです。（「ムシヤクナ」と覚えまして！） 一体、われわれは、どれだけのお米の粒で、生きながらえているのでしょうか。 われわれの命の奇跡に、「畏敬（いけい）」「感謝」の言葉しか見当たりませんよね。

どうおん）に仰（おつしや）います。 尊い命を落とされる方や行方がわからなくなる方もどのほどの豪雨の一方で、極端な少雨で取水制限や断水が出る地域もあり、この「二極化」、どうしてこのようなことになるのでしょうか。 吉田兼好（よしだ けんこう）のしるした徒然草（つれづれぐさ）には、「四季は定まれる序（ついで）あり 死期（しご）は序を待たず」とありますが、人間の命ほど定めがないものではなくて、「老いたると若きとにかかわらず、定めがたきものは死期なり」ともしるされていて、その人の命とは裏腹（うらはら）に、日本の四季は、折り目正し（うらばら）いと強調されているのですね。 その日本の四季の真夏の前に必ず、梅雨があつて、まとまった雨が広い地域に降るからこそ、乾いた田を滔々（とうとう）とした水を湛（たた）えた美田（びでん）にかえることができたのです。 そして、たわわに実った稲が、頭（こ）うべ）をたらし、黄金色に輝いて、そのお米の恵みをいただいで、「日々是好日（にちちこれこうじつ）」、毎日が穏やかで良い日」

◇東京大学大気海洋研究所の本木雅秀教授は、「統計的に裏付けられてはいないが、地球温暖化が進むと、降る場所と降らない場所の差は大きくなるといわれている」と話されています。 気温が上がれば空気が含むことのできる水蒸気が増える一方で、ある気象条件のもとで雨が降ることができる場所は限られているので、一度に降る量が増えるのだそうです。 さらに、その強い雨が、周辺での降雨を抑えることにもなるそうです。 これが、甚大なる被害をもたらした「ゲリラ豪雨」の要因なのであります。 地球環境をふくめ、日本の気象の変化も、思いのほか深刻なようです。 先人たちは、危機に見舞われた時、どのように対応したのでしょうか。 氷河期が終わったとされる約一万二千年前は、氷が解けたことよって、海流の循環が変化し、暖かくなる前にいったん寒冷化が進み食糧不足となったそうです。 文化人類学者の竹村真一先生は、「そこで人類が創造したのが

農耕だった」と仰（おつしや）っています。ピンチの時に、自給自足という「フロー」社会から、たくわえるという「ストック」社会に変革するという離れ業をあみだしたのです。これから、温暖化ガス削減の国際的な仕組みや、異常な気象から人命と安全を守る社会インフラづくりにですね、「知恵」を絞り、先人たちに見習ってですね、乗り越えていかなければならないですね。

◇天照大御神（あまてらすおおみかみ）、伊勢の神宮の内宮（ないくう）にまつられています。お孫さんにあたる瓊瓊杵尊（ニニギノミコト）に託されたのが、「稲穂（いなほ）」であります。日本書紀（にほんしよき）に書かれている、「三大神勅（さんだいしんちよく）」といわれるひとつで、「斎庭（ゆにわ）の稲穂（いなほ）の神勅」であります。天照大御神が、「私が高天原（たかまのはら）で作る神聖な田の稲穂をわが子に授けよう」と託されたのですが、単なる稲穂ではなくて、天皇陛下の御即位で一番重大な儀式である「大嘗祭（だいじようさい）」にお供えをされた稲穂なのです。毎年十一月に行われる新嘗祭（にいなめさい）をはじめとして、四季折々の祭典は、まさに、その特別な意味を持つ尊い稲穂に感謝をささげ、その神勅（しんちよく）にゆだねられた天照大御神の大御

心（おおみこころ）に添うべくお祭りを行い、さらには、今日までかわることなく継承されてきた精神を次代に継承するということなのですね。「倉庫令（そうこれい）」という古い法律には、「米は二十年たくわえよ」と定められていてですね、その米の貯蔵倉庫ともいふべき、高温多湿（こうおんたしつ）の日本に気候条件にそくした、「高床式（たかゆかしき）」のお建物に、天照大御神はお鎮まりになつていらつしやいます。そして、倉庫令の定めのとおり、二十年に一度お建て替えでありまして、天武天皇がお定めになり、持統天皇が始められた第六十二回の式年遷宮、いよいよ今秋です。すでに、「お白石持ち行事」も始まりました。日本の「ストック社会」の原点は、神宮さんなのですね。

◇過日、私は五十一歳を迎えました。日本人の「神社信仰」の三本柱は、「稲と家と御先祖様」と考えます。その三本柱を次世代に継承する「防人（さきもり）」としての、その与えらえた使命、天命を肅々（しゆくしゆく）と果たしていかねばと決意を新たにしています。御自愛をお祈り申し上げます。

◇七月の祭典行事予定ならびに報告

- ▼月次祭 *七月一日、十五日
- ▼六連島七社祭 *七月九日
- ▼福浦金刀比羅宮月次祭 *七月十日

- ▼竹の子島天満宮例祭 *七月十五日
- ▼朝粥会 *七月二十一日
- ▼夏越祭
- ◆奉納グラウンドゴルフ大会 *七月二十八日
- ◆本宮 前夜祭 七月二十九日
- ◆本殿祭、御神幸祭 七月三十日
- ◆田の首八幡宮 七月二十四日
- ◆六連島八幡宮 七月二十五日
- ◆海士郷恵比須神社 七月三十一日

◇七月の宮司の行事会議等予定、活動報告

- ▼山口県神社庁、同下関支部関係
- ◆野村前片長神職身分特級祝賀会 *七月二日
- ◇山口県八幡宮会設立二十周年記念式典 *七月四日
- ◇神社庁役員会、支部長事務局長会議 *七月八日
- ◇山口県神社総代会役員会 *七月十一日
- ◇市敬神婦人会役員会 *七月十七日
- ◇神職養成講習会開講式 *七月二十六日
- ▼西ロータリークラブ
- ◇例会 *七月三日、十七日
- ▼教诲活動（美祿社会復帰促進センター）
- ◇集合教诲（女子） *七月八日
- ◇集合教诲（男子） *七月二十二日
- ▼その他
- ◇しおかぜの里保育園役員会 *七月十九日